



芝小だより



第六月号

発行所 港区立芝小学校
 〒105-0014
 港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



「打てば響く」から「察する」

そして「共に行う」

二十七日(土)に運動会を行いましたところ、御来賓の方々、保護者や御家族の皆様にご多数お越しいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。今後更なる改善を重ね、皆様の御期待に応えてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、先日の全校朝会で、主幹教諭から挨拶の仕方の話がありました。お辞儀と言葉とを一緒にするのはなく、例えば「おはようございます」と言うことから礼をするように、との指導でした。それから三日目に音楽集会がありました。担当の子供が全体に挨拶をすると、子供たちみんなが全校朝会での指導を守って挨拶していました。私は、子供たちの姿を見ながら今までの自分の中途半端な振る舞いを恥じるとともに、彼らから「打てば響く」という言葉を思い浮かべました。

現れる」(大辞林より)とされます。冒頭に御紹介した子供たちの姿は、まさにこれを体現していると言えましょう。

本校の子供たちが「打てば響く」が如くすぐに結果を出せるのには、きつと素直な心の持ち主であること、言われたことの意味や価値をすぐに捉えられることなどの理由があると推察できます。ひょっとすると、本当は受け入れられない、といったことがあるかもしれませんが、今はこれを味わい、どうしても、というときにはこれから先に変更や改善をしていくこともできましょう。

「打てば響く」子供たちはとても多くのことを身に付けることができます。例えば、運動会練習のとき、特に全体の両側に位置する高学年は体を指揮台に向けて指導者をしっかりと見ながら話を聞くことを学びました。六年生の行進の仕方が素晴らしいので手本にしよう、と伝えれば、誰もが膝を高く上げて歩こうとします。私共は改めて、子供たちに何を学ばせるべきか、と身が引き締まる思いがします。

「響く」子供たちがむらじ

さて、運動会の前々日はあいにくの雨模様でした。私は、当日が悪天候であった場合の対策の一つとし

て、「校庭に雨水がたまった際の対処」を考えておりました。副校長と体育主任とで、雑巾やスポンジ等を用いて水を取り除こうと試みました。意外に効果があることに気が付き、より多くの人がいれば短時間で処理できる、そして、この日も校庭で練習ができる状況を整えられるかもしれない、と思いました。

ふと校舎を見ると、六年生がこちらを見ていました。そして、私共の様子から子供たちは人手が必要なることを察し、一人、二人、と校庭に雑巾を持って現れ、最終的には三十名以上が集まりました。わずかな時間で水がたまりが随分となくなり、その後運動会練習をする学年が出たほどでした。私は、ありがたい気持ちになりました。

「打てば響く」子供たちは、行動様式等を身に付けるとともに、そこに内在する意味や価値を捉え、さらに人の心を察して行動します。特に、人の心を察するとはまさしく相手の立場に立つことであり、このことは、例えばこれから子供たちが学習する際に求められる「対話的な学び」、つまり人と関わりながら創り上げるという姿につながっていきます。

本校の子供たちと出会って二か月が経ちますが、様々な素敵な姿や可能性に触れ、出会いの素晴らしさを日々味わっています。

「打てば響く」とは、「すべ、その反応・効果が